

ジャン・リュク・シュバリエと申します。皆さん、こんにちは。CSTBの中で環境持続可能な開発を担当しております。

私の今日のプレゼンは、FDES、建築製品に関する環境申告というものでして、国際的に言えば、ETDに対応するものと言えるかと思います。

皆様のうちで、昨日のお話を聞いた方は、もう既に環境申告というものを一般的な形で聞いておりますし、それをどうやって評価ツールを使って建築の中で落としていくかということはお聞きになったと思いますので、そのところを繰り返すことはいたしません。さらに、時間も押しておりますので、スライドを飛ばしながら、できるだけ早くご説明します。

既にこのサマリーの中に出ていた一番最初の役割であるとか、そういう一般的な話、それから、ライフサイクル分析については、昨日話がありましたので、もうすぐに、こうした製品が建築の分野でどのように貢献するかというところに話を持っていきたいと思います。

(\*以下[ ]内番号はパワーポイント資料のスライド番号)

[5]\* まず初めに言っておきたいことは、果たして環境品質というものを評価するに当たって、これは比較の対象として製品を比較するためにやるのかということ、決してそうではありません。あくまでも建物全体の貢献を図るために行うということがまず第1点です。

[6] 次に、だれのためにこういう評価をするのかということですが、消費者のためですか、ユーザーのためですか、これには答えはノーです。そうではなくて、プロのためのこれは評価方法であって、実際にそのものを選ぶ人、建築家、デザイナーといったところのBtoBのツールとなります。

では、どうやって評価をするのかということで、これはエコラベルなのですかと聞かれますが、そうではありません。我々はエコラベルという答えよりも、コミュニケーションフォーマットである。単なるエコラベルではありません。もう少しライフサイクル分析のために必要な複雑なフォーマットです。ただし、当然ながらLCAはこの中に要素として入ってきますけれども。

[7] 次に、仕事のやり方ですが、単体だけで使うものですか。これに対しても答えはノーであって、あくまでも利害関係者全体、関係団体が集まって協力をして使うタイプのもので、その中でも特にメーカーを入れることが重要でして、メーカーを入れるとどうしても時間がかかるし、議論がどんどん伸びて、最終的には意見の一致を見ないこともありますけれども、メーカーをここに入れることは極めて重要です。

[8] FDESとは何ですかというので、このスライドは昨日も皆さんご覧になったかと思えます。一言で言えば、これは一種のファイルでありまして、フランス規格、NFをベースにしております。そのNFは、ISOとの整合性をとっておりまして、その中で幾つかの特色があるものですので、実際にファイルを開けてみて、その特色を皆さんに直接見ていただくようにしたいと思います。

[9] では、FDESの中に何が入っているか。3つありまして、1つはファンクショナルユ

ニット。2つ目は典型的な寿命。3つ目は環境と衛生のインパクト指標が入っています。

まず、環境インパクトです。

環境インパクトのパラメータは、右の四角の中に入っているとおりです。これは英語で書いてありますので、皆さんこれをざっと目を通していただければわかるかと思いますが、簡単に言えば、エネルギー源の消費。これは1次エネルギー、再生エネルギー、非再生エネルギー、それとエネルギーの実際のリソースの欠損、水消費、トータルの固形廃棄物、排出された固形廃棄物で危険物、非危険物、不活性のもの、放射性のもの、気候変動、大気の酸性化、大気汚染、水汚染、大気圏のオゾン層の破壊、さらには光化学オゾンの生成などがあります。

右側の方が衛生関係の特性をまとめたものでして、大きく居室内の空気の質と水の質に分かれます。室内の空気の質については、COVとホルムアルデヒドの発生、繊維と粒子、さらには、かびと微生物の成長、放射性物質、水の方に関しては危険物、湿度による快適さ、音環境、視環境、嗅覚の環境というのがあります。

[10] 先ほど言った内容の申告がそれぞれの製品に関して上がってきまして、これはメーカーなども入って決めておりますけれども、それをデータベースであるINIEESの中に取り込んでいます。

このINIEESというものの作成に当たっては、多くの機関が関与しています。複数の館長、さらには建築関係の技術ノウハウを持っている機関、メーカー、認証機関、ADEMなど、省エネの機関も入っておりまして、全部で16の機関が関与し、データベースを作り上げました。今のところは、必要な資金も16機関で負担して供給しています。インターネット上で無料でアクセスできるデータベースです。

さらに、このINIEESを管理しているのは2つの機関がありまして、1つは監視委員会と呼ばれるものです。これがINIEESの中立性を担保しています。こちらの方は、関係官庁の方がリーダーシップを務め、理事長を務め、AFNORが事務局となっています。

もう一つ、技術委員会というのがありまして、こちらは、インプットされたファイルの内容が正しいかどうかということを保証しています。こちらについては、メーカー側が理事長、議長を務め、実際の裏方の大多数の作業は、我々CSTBが事務局として行っています。

では、この後、実際、皆さんデータベースをインターネット上でお見せいたしましょう。ただ、そういうことをやろうとすると絶対失敗するのですけれども、何とかうまく皆さんにデモをやりたいと思います。

今、データベースのホームページに行っています。

こちらがホームページの1ページ目です。その横にツールがいろいろ載っています。

こちらがプロダクト検索ツールとなっています。英語の記述もあるのですが、残念ながら1ページ目しか英語にまだなっていないので、申し訳ないのですけれども、フランス語のページでこのまま検索を続けさせていただきます。

こちら、プロダクトの検索のツールを使っています。

それから、追加情報が欲しい場合。特に、ファイルがどのようにつくられているかということの追加情報は、モア・インフォメーションというところで見ます。

それから、用語集が載っているページもあります。

それから、一番右側、FAQと書いてあるよくある質問のページもつくってあります。

これから具体的に1つ2つ、ファイルを開けて、どうなっているのか見ていただきますが、その前に全ファイルのリスト。これがカテゴリ別に分類されています。例えば、床の化粧材であるとか、木材のプロダクトであるとか、こういうふうにカテゴリ別に項目が組んであります。

例えば、パーティションというところを開けてみましょう。

これは、完全にアットランダムにどこかをクリックしてみました。

これは、たまたま石膏ボードのところなのですけども、こういうふうに必ずまず初めに定義が書いてあります。

製品の名前、メーカーの名前、インプットされた日付。

すぐに環境指標というところにいってみます。

これです。これは何で指標がないかといいますと、今、英語のページで開けたからです。フランス語のページにはちゃんとついてます。

こちらの方で指標があって、ユニットがその右側の方に書かれていて、単位が書かれていて。このとおり。フランス語版だとちゃんとあります。

12ほどの指標がとってあります。ここのところで、ファンクショナルユニットも記述されています。この場合には石膏ボードで、ある枠組みの骨になっているところに固定された石膏ボードの平米当たりの数字となっています。

これは、欧州規格に適合しています。

ライフサイクルとしては、典型的な期間が50年となっています。

その後、その下には、ファンクショナルユニットを構成しているすべての構成材のリストが載っています。ただ単に石膏ボードだけではなく、それに使う漆喰であるとか、ジョイントの目地であるとか、ビスであるとか、紙で1枚張る層であるとか、そうしたものが全部それとして、一体として、部品として使われるというもののリストが載っています。

それから、健康衛生なり快適さなりに関する指標もこの横についています。その説明も横にあります。

今見ていただいた指標のページは、あくまでもF D E Sのサマリーのページですが、全体のファイルを見ようと思ったら、こういうふうに、細かく一々説明はしませんが、これを見ていただきますと、それぞれの指標というのがライフサイクル全体の総合的な指標の判断の結果であることがわかります。つまり、生産から、輸送から、実際に現場での設置から、その後の廃棄まで含めた形での指標を入れ込んだファイルになっています。

では、もう一度私のプレゼンの本来のパワーポイントに戻ります。

[11] 今後の展開ですが、今のところ、このデータベースはあくまでもフランス国内のみで使われているだけのものです。しかし、それを国際的に広げることできると思いますので、それを視野に入れて、I S Oの2007年に生まれた21930との整合性をとっております。

それから、欧州規格で現在検討中のもの。これは現在ドラフトが作成中です。

それから、現在議論になっている項目としては、B to Bのままでいいのか、それともB to Cにした方がいいのか。それから、1つだけのP C Rにした方がいいのか。これについては、詳しいことには深入りしませんが、これすべて建築の用途で使われるものですから、プロダクトが何であろうともフォーマットを全部均一にして使えるようにした方がいいのかどうかという議論も現在進んでいます。

それから、もう一つ議論が進んでいるのは、このFDSをモジュール化して、ある一部だけのデータを取り出せるようにしたらどうかというもので、つまり、工場出しのところまでをモジュールとして出せるようにする。その後のライフサイクルは一切考慮に入れないということが今検討されています。我々、必ずしもそうした方向に賛成ではないのですが、そうした圧力が現在外からかかっております。

さらに、現在、INIESのようなタイプのデータベースは世界であまり数がないのですけれども、そういう中で、果たしてほかの規格を使っているデータベースとの調和をもっととった方がいいのではないかとか、さらには将来的にはSBアライアンスの中でどうやって一緒にこの先に作業をやっていけるかという検討をしたらいいのではないかという話も出ております。

[15] では、私のプレゼンは以上ですが、最後にこの風景を見てください。私は実はローヌアルプス地方に住んでいるものですから、アルプスのすぐそばで、来週にはこういう風景が見られることを祈るばかりです。どうもありがとうございました。

それから、最後に数量的なデータを1つだけお伝えして、私のプレゼンの終わりにします。

現在、INIESデータベースには217のファイルが入っておりまして、1,500のプロダクトをカバーしています。それ以外にもあと残り90が既にインプットされておりまして、今後の活用を待っているところです。